

東京大学海洋研究所の研究船運航の現状について

	白鳳丸	淡青丸
仕様	全長 100.0m 幅 16.2m 深さ 8.9m 総トン数 3,991ト 航海速力約 16 ノット 航続距離約 13,800 マイル 乗組員数 38 名 + 船医 1 名 乗船研究者数 35 名 研究室数 10 建造年 1989	全長 51.0m 幅 9.2m 深さ 4.2m 総トン数 610ト 航海速力約 12 ノット 航続距離約 7,134 マイル 乗組員数 23 名 乗船研究者数 11 名 研究室数 2 建造年 1982
主な特徴	観測性能、操船性能において世界トップクラスの大型海洋観測船。広い、作業甲板、研究室スペースを有し、同一航海中に多岐にわたる観測を実施できる。静穏で高速航走ができることを特徴とし、20kHz シービームなど音響探査に優れた性能を有する。	小型ながら A フレーム、CTD、各種音響装置、ウィンチ、エアガンコンプレッサーを装備し、日本近海での多彩な海洋観測に多用されている。
年間運航日数 (H15)	174日	177日
航海数 (H15)	5 航海 (外航 3 航海連続)	20 航海 (すべて内航)
航海計画策定年数の単位	3 か年ごと	単年ごと
航海計画策定方法	共同利用公募 (3 か年ごとの大型計画公募と、単年度ごとの小規模計画公募の併用を特徴とする)	共同利用公募 (11 月末公募締め切り、翌年度 4 月よりの航海実施による即応体制を特徴とする)
共同利用計画申請数 (H14)	36 件 (H16-18 に対し全必要観測日数 1338 日)	46 件 (H15 に対し全必要観測日数 298 日)

白鳳丸・淡青丸比較表

航海計画作成フローチャート

白鳳丸航海計画作成手順

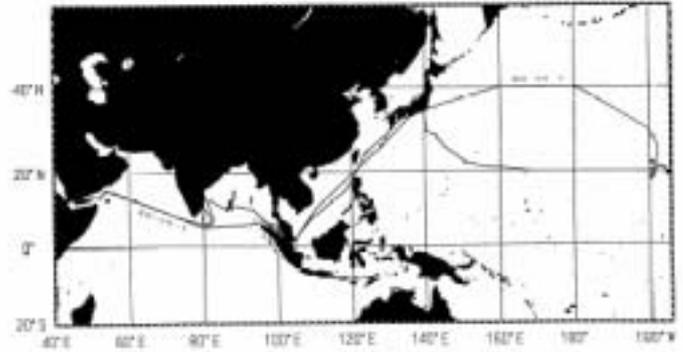
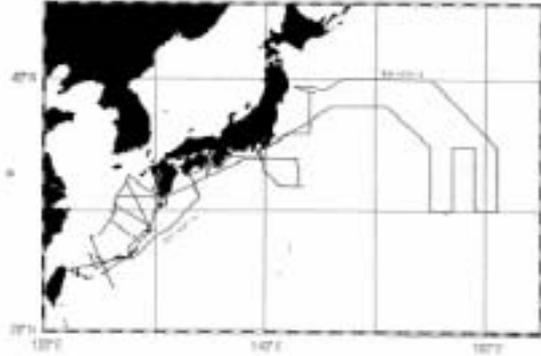
- (1) 申請計画公募 (海洋研究所長名で各研究機関宛 3 カ年ごとに実施)
- (2) 白鳳丸長期計画立案シンポジウムの開催 (申請計画各代表者が申請計画を発表を行い、相互評価、計画調整などを行う)
- (3) 海洋研究所研究船運航計画作成作業部会による申請計画の評価採点の実施 (作業部会は、海洋研研究船運航委員会委員 6 名と所外委員 6 名より構成)
- (4) 海洋研究所研究船運航委員会による航海計画の作成、主席研究員予定者の決定 (白鳳丸船長、観測機器室主任がオブザーバーとして参加)
- (5) 共同利用施設運営委員会による運航計画の承認
- (6) 各年度に相乗り型の小規模研究計画を公募、海洋研究所研究船運航委員会と航海主席研究員の協議により採否を決定
- (7) 海洋研究所教授会による各航海実施計画の承認
- (8) 航海打ち合わせ会議 (乗船研究者、乗組員、海洋研世話部門研究者、共同利用・海務掛参加)
- (9) 観測機器積み込み作業をへて航海の実施

淡青丸航海計画作成手順

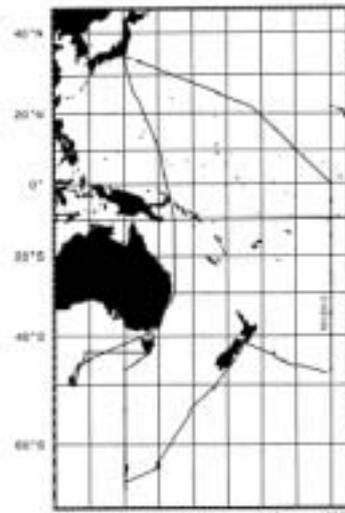
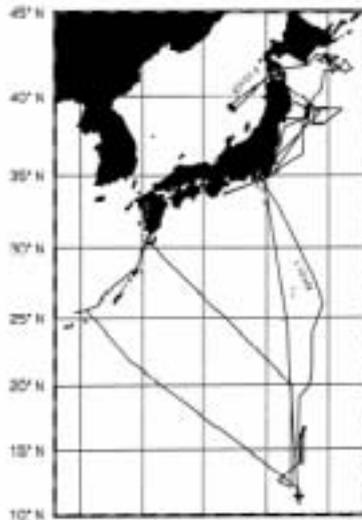
- (1) 申請計画公募 (海洋研究所長名で各研究機関宛各年度ごとに実施)
- (2) 海洋研究所研究船運航計画作成作業部会による申請計画の評価採点の実施 (作業部会は、海洋研研究船運航委員会委員 6 名と所外委員 6 名より構成)
- (3) 海洋研究所拡大研究船運航委員会による航海計画の作成、主席研究員予定者の決定 (白鳳丸船長、観測機器室主任がオブザーバーとして参加)
- (4) 共同利用施設運営委員会による運航計画の承認
- (5) 海洋研究所教授会による各航海実施計画の承認
- (6) 航海打ち合わせ会議 (乗船研究者、乗組員、海洋研世話部門研究者、共同利用・海務掛参加)
- (7) 観測機器積み込み作業をへて航海の実施

白鳳丸過去3力年研究航海航跡図

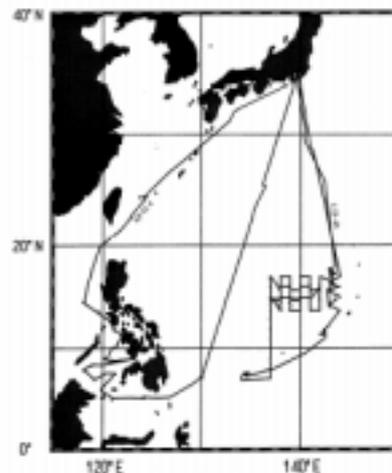
平成12年度



平成13年度



平成14年度



淡青丸平成14年度研究航海航跡図

(Scale : 1 / 14000000)

